



旧浄圓寺外観

横須賀のお寺で法務の手伝いをしながら、東京仏教学院を修了し、東京都北区赤羽で開教活動を始めました。赤羽では、墓地での繋がりを中心に活動していました。一九五八（昭和三十三年）、千葉県の松戸市に活動拠点を

布教使として人々とともに 救われていきたい

移します。当時、松戸市は、東京のベッドタウンとして急激に人口が増加しており、また、都営八柱霊園という巨大な墓地が造成されていたこともあり、この時、島根にいた家族も松戸に来て一緒に暮らし始めました。霊園をきっかけとして人々との繋がりを築いていき、松戸に移ってから十三年、一九七二（昭和四十六）年に、八柱霊園にほど近い河原塚という地に一軒家を購入、この時、宗教法人格も取得して一九七二（昭和四十七）年天真寺を設立します。この地で十五年余り活動した後、一九八九（平成元年）に現在の金ヶ作の地に移転、本堂を建立し、一九九一（平成二）年に落慶法要を勤めました。前任職の開教、天真寺の設立の経緯は、NHK特集「寺が消える〜中国山地・ふるさとからの報

告」の中にも収録され、大きな反響を呼びました。その後、一九九二（平成四）年に、恵照現住職が継職、二〇〇三（平成十五）年に正念前任職は往生されました。二〇〇六（平成十八）年には、浄圓寺と天真寺は合併、二〇〇七（平成十九）年には、松戸市内に「大町やすらぎパーク」という墓地を造成し、境内地にも駐車場を整備しています。

天真寺の周辺

天真寺は、千葉県松戸市の金ヶ作に位置しています。松戸市は、都心から二〇キロほど、通勤圏内というところで戦後急激に人口が増加したところです。一九五六（昭和三十一年）、昭和の大合併で、ほぼ現在の市域となりましたが、その時の人口は約七万人。その後、新京成電鉄の開通、常盤平団地などの造成が進み、東京の衛星都市として急激に人口

天ちゃんと一緒に

東京教区千葉組天真寺

天真寺
松戸市

- 過疎地のお寺
- 都市開教
- 開かれたお寺
- 門信徒の活動

千葉県

シリーズ
お寺はかわる
⑦



天ちゃん

♪天ちゃん天ちゃん
テテテテ天ちゃん
ナモノナモノ
天ちゃん ♪♪
これは、天真寺のマスクotteキャラクタ「天ちゃん」のイメージソング「天ちゃんのうた」の冒頭部分です。全国に約一万余ある本願寺派のお寺ですが、その中でもマスクotteキャラクタ、イメージソングがあるお寺は数少ないのではないのでしょうか。千葉県松戸市にある天真寺では、このほか、門信徒の方々とともにさまざまな活動に取り組んでいます。今回は、この天真寺の活動をその歴史とともに紹介していきます。

都市開教へ

天真寺は、先代の西原正念前任職が、都市開教を行い、今から四十年ほど前にできた比較的新しいお寺です。正念前任職は、一九二七（昭和二年）、島根県邑智郡の浄圓寺に生まれました。もとより門徒さんが少なく、また、過疎化が進んでいたこともあり、正念前任職は、近くの農協に勤めながら、週末に法務をするという生活を送っていました。しかし、「布教使として人々とともに救われていきたい」という思いに駆られ、一九五七（昭和三十一年）、三十歳の時に広島仏教学院に通い始めました。その後、より多くの人々とともに救われていくためには、より人が集まる首都圏に出なければならぬという思いを抱き、正念前任職は、既に結婚もし、二人のお子さんもいましたが、単身、東京に赴き、東京仏教学院に通い始めました。



天真寺外観

が増加、昭和五十年代には四十万人を超えました。近年は、人口増加も落ち着き、二〇〇九（平成二十一）年現在、約四十八万人、約二十万世帯の都市となっています。

一方で、松戸市には従来、本願寺派寺院が一カ寺もありませんでした。しかし、地方から松戸に移り住んで来た人々には、故郷を離れ、最寄りのお寺を探している方もあり、また、その中

ボランサー——できる人が、できることを

には、もともと本願寺派のご門徒であった方もありました。

人口が急増していたこと、かつ、本願寺派の寺院がなかったことから、松戸市での開教が待ち望まれて、そこに、正念前住職の熱意が相応し、天真寺の基礎が築かれていったのでしよう。

現在、松戸市には、開教によって、天真寺を含めて二カ寺が設立され、聴聞ちやうもんの場となっています。

門信徒の活動

苦労を重ね、お寺を築き上げてきた正念前住職の姿を見てきたこともあり、惠照現住職をはじめ寺院の方々には、自分たちも頑張らねばならないという思いが強くなり、天真寺では現在、さまざまな活動が行われています。

門信徒の方々による組織としては、



ボランサー 寺報の発送作業風景

ボランティア活動など活発な活動がなされています。

壮年会は、近年発足したもので、門徒さんの中から「やりましょう」という声上がり、結成されました。壮年会では、発足時から、「ふれあい農園」として境内地の一画で畑を耕し、ほぼ毎週集まって作業を行い、キュウリやトマト、ニンジン、枝豆などたくさんの作物が栽培されています。昨年（二〇〇八年）の夏には、キッズサンガ企



ふれあい農園 収穫の風景

画「お寺で遊ぼう！ 夏休み子ども会」の一環として、畑で収穫された作物でバーベキューを行いました。参加された方からは「またお寺に行きたいと孫が言っていたよ」という声も聞かれ、天真寺の活動として軌道に乗ってきています。

開かれたお寺

門信徒会などは、天真寺の門信徒が主となっている活動ですが、このほかにも門信徒であるかどうかにかかわらず、地域の人々に開かれた活動も行っています。「寺子屋」と名づけられたこれらの活動には、仏教講座会、雅楽ががく教室、写経教室、ヨガ教室などがあり、毎月決まった日に開催されています。これらの活動には、門信徒以外にも多くの方にお寺に来てほしい、門戸を開いていきたいという思いがあります。お寺の前にバス停があり、そこでバスを待つ間にお寺の掲示板を見て、それ

が縁で来られる方もあり、また、口コミやホームページを通してお寺に来られる方もおられるとのこと。

冒頭に紹介したお寺のマスコミキャラクター「天ちゃん」も、より多くの方に天真寺に親しんでもらいたいという思いから生まれてきました。二〇〇六（平成十八）年当時、天真寺のホームページを拡充している際に、マスコミキャラクターを作ったらしいのではないかとこの案が出され、デザイン会社にキャラクター案をいくつか出してもらい、報恩講の時に門徒さんに投票してもらって決まりました。当初は、名称も決まっていなかったのですが、「天真寺」にちなんでいつの間にか「天ちゃん」と呼ばれるようになっていました。

そして、天真寺の寺基移転二十周年を記念して作成されたのが「仏教讃歌CD」です。「やさしさにあふれた」「や「ありがとう」といった広く親しまれている仏教讃歌とともに、天真寺の

子どもがいつ遊びにきても いいような雰囲気

イメージソング「天ちゃんのうた」が収録されています。この音楽CDは、門信徒の方々の協力によって作成され、門徒の高森篤子さん、竹内恵里さんが歌い、「天ちゃんずファミリア」と命名された合唱団がコーラスを付けています。

また、聞き取りに訪れた際、近所に住む子どもが天真寺に遊びに来て、私たちと一緒に本堂や境内を見て回ってくれました。天真寺の皆さんにとっても、その子どもにとっても、それがとても自然なことであるように感じられたのが印象的でした。子どもがいつ遊びに来てもいいような雰囲気を出している、お寺としては当たり前のことなのかもしれないですが、これは意外と難しいことであると思われれます。

活動を支えるもの

天真寺の活発な活動、これは前述の通り、街中でゼロからお寺を築き上げてきた前住職の背中を見て育ってきたということもありますが、お寺の将来に対する危機意識もあります。

松戸は、戦後の高度経済成長期以降、この地に移って来た方が多く、また、集合住宅が多いことから、人の転入も激しい地域です。このような都市部の人々には、お寺への帰属意識が弱い、お寺に束縛を受けないという傾向があり、お寺以外の墓地をあえて求める人も多いようです。現在、門信徒会に入っている方も、その後、子々孫々と天真寺を護持してもらえないかわからないという危機感があり、これが、常

地域の人々のために、社会のために

お寺は何ができるのか

に新たな活動を生み出している天真寺のモチベーションにもなっています。

また、住職や寺族の方には、お寺には公共性があるべき、地域の人々のために、また、社会のためにお寺は何ができるのか、何を担っていくべきなのかを常に考え、行動していくという姿勢があります。そして、お寺という場で人々が繋がりをもち、人々にとって安心できる場、心のやすらぎをもてる場でありたいという思いがあるのです。そんな思いが、寺子屋の活動やマスコミキャラクター「天ちゃん」と繋がり、また、近くの子どもがいつでも遊びに来ることが出来る温かい雰囲気を生み出しているのです。

天真寺は、現代のお寺が抱える多くの問題が凝縮され、それに対する一つ



天真寺のみなさん

の方向性を提示しているお寺といえるのではないのでしょうか。

過疎化が進み、人がいなくなるなかでお寺が残っていくためには大きく、地域そのものを活性化していく、人が集まる地域で開教していくなどの選択

肢があり、前住職は都市部へ出ていくという選択をしました。そして、お寺への帰属意識が希薄な都市部での活動では、従来のお寺のイメージにとらわれず、できることは何でもやってみていくという姿勢、そして、町の人々、社会のためにお寺は何ができるのかを常に模索していく。

お寺はこうでなくてはいけないという決まったかたちはないものの、一つの方向性を天真寺は現在進行形で示しているように思われます。

（本願寺教学伝道研究所寺院活動研究会 長岡岳彦）

- 1 ボラン寺活動については、本願寺新報（二〇〇六年八月十日号）にも掲載されています。
- 2 認定NPO法人 幼い難民を考える会ホームページ (<http://www.cjfr.or.jp/>) 参照。
- 3 天真寺ホームページ <http://www.tenshin.or.jp/>